

【成果報告書1:海洋教育デザイン】

1 東京大学教育学部附属中等教育学校

生徒:後期課程 4年生(男子 5名、女子 5名)

前期課程 3年生(男子 4名、女子 4名) 合計 18名

2 全体活動テーマ

「境界(地域、文化、世代、学校種)を越えた海洋教育連携カリキュラム・デザイン」

活動テーマ

課題別学習「海・Sea」

連携校:沖縄県宮古島市立池間小中学校

沖縄県珊瑚舎スコーレ(夜間中学校)

3 実践の概要・ねらい

東京と沖縄の小・中・高校生が連携して、海を介して人を知り、人を学び、日常生活では体験できない(他の価値には置きかえることのできない)「学び」を教育学的観点より育む新たな海洋教育連携カリキュラム開発を目的とする。

この連携授業は、各学校が共に「海と人との共生」をキーワードに「海を学ぶ」オーサー校の東大附属が中心となり、沖縄で「海に学ぶ」沖縄本島の夜間中学の生徒(高齢者)、「海で学ぶ」宮古島池間島の小・中学生と沖縄本島で交流会を開催し、お互いの地域で行われている海に関する、また介した学校行事の取り組みや考えについて発表し、共に体験をする。そして自分の生活環境と異なる地域の人の海に対する価値を自然、生活、文化、歴史、産業、経済等の様々な分野から、深い課題、深い関わり、深い理解をもって協働的に学び、海から地域愛を育てると共に子どもの生きる力を育むことをねらいとする。また交流会を通して自己を対象化させることにより、自己のあり方を見つめ直すきっかけとする。

4 実践計画

① テーマ・概要・活動計画、教科等との関連

「海と人との関わり」について、資料、書物の読解(知識や理解の深化)、フィールドワーク(沖縄体験・交流)、対話(新たな価値の発見)、映画制作(創出と協働の学び)を行い、海との関わりの深さと豊かさを学ぶ。そして、連携校の沖縄の小・中学生と沖縄で交流会を行い、そこで培われた感性と新たな価値をもって生きる力を育むことを目的とする。

- ・聞くことを中心としたコミュニケーションスキルを養う
- ・自己を対象化させ、新たな価値を育む
- ・他ともに互いの価値が異なることを共有し大切にする
- ・他者を意識し、自分の言動に自覚的になる
- ・自己の表現、探究からメッセージを自らの手法や言葉で発信する

【単元の指導計画】

授業構成を、①学び方を学ぶ、②実際に見て触れて学ぶ、③学びを深める、振り返りからつなげる、④新たな創造からの協働的な学び、とした。以下がその内容である。

(1) 学び方を学ぶ

- ・日本の海と人との事情を知るために、全国の地域における海と人とのかかわりを「宗教、自然科学、歴史、言語、社会、他など」の9つの分野に分けて、「海と人のかかわり地図」を作成する。
- ・「海と人と社会」に関わりのあるインタビュー・テーマを主体的に決め、調べ学習を行う(海の役割、生きることと海、経済と海、海の生態系など、人と海との関わりについて、読み・書き・まとめる・発表する)。
- ・「海(Sea)」をテーマにパフォーマンスの身体表現・創作を行う。
- ・映像制作に必要な機材の扱い方、映像制作の知識やルールについて学ぶ。

(2) 実際に見て触れて学ぶ

- ・東京と異なった地域社会に触れ、見て、聞いて、行動し、そして考える。
- ・沖縄で宮古島の中学生、沖縄本島の夜間中学生(高齢者)と地域の異なった様々な人々の海との関わりを探究する。
- ・現地にて島国の人々のさまざまな海との関わりを探求する。

※沖縄で現地の人たちへのインタビュー、記録としてのビデオ、写真の撮影・収録

○沖縄宿泊学習

(一日目)

- ・池間島小中学校の生徒とともに戦争追体験(糸数壕への入壕、平和祈念資料館の見学)
 - ・珊瑚舎スコーレ(夜間中学)と池間小中学校の3校での交流会
- これまでの実践発表および報告を行う。

(二日目)

- ・琉球大学博物館の見学(風樹館の学芸員による案内)
- ・浜比嘉島で池間島小中学校とともに塩製造工場の見学、および海水からの塩づくり
- ・うるま市勝連庁舎にて「あまわり浪漫の会」と池間島小中学校と3校で交流会

※ 中学3年から高校2年生 198名の演技鑑賞および共演

(三日目)

- ・読谷村入村、読谷村民家さんとの交流会、民家家業の手伝い(農業、黒糖作り、琉球舞踊および三線、家畜の世話など)
- ・ドキュメンタリー映画制作のためのインタビューの実施

読谷村泊

(四日目)

- ・読谷村退村

(3) 学びを深める、振り返りからつなげる

- ・体験から得た自身の価値に対する心の整理と創出を、活字、ことば、イラストから行う。
- ・これまでに記録した沖縄のメディアをもとにドキュメンタリー映画の構成を考える。
- ・映像記録の編集及び「海と人とのかかわり」「聞くこと・語ること」「記憶を記録する」「対話する」をキーワードに一人1本のドキュメンタリー映画を制作する。

(4) 新たな創造からの協働的な学び

- ・事後学習で仲間が制作したドキュメンタリー映画に対し、同様の問題意識(問い)をもった者同士で第2作ドキュメンタリー映画「ふたつの対話」の構成を考える。
- ・沖縄の人にとっての海を対象化させるために、日本海の海で生活する人、奥能登輪島の方たちと対話をする。
- ・第2作「海と人との関わりⅡ」と題し、ドキュメンタリー映画をグループで制作し一年間の成果物とする。

※2018 全国海洋教育サミット「ポスター発表」で発表を行う。またパネリストとしてシンポジウムに登壇する。

時	学習活動	指導上の留意点
1	オリエンテーション、授業説明、アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none">・授業の概要を説明。・生徒同士の関係構築のためのアイスブレイク。
2	「海と人との関わり」日本地図①	<ul style="list-style-type: none">・全国の「海と人とのかかわり」を探るために、各地方を10つのカテゴリーに分け、海と人とのかかわり事情を調べる。・図書館での情報収集。
3	「海と人との関わり」日本地図②	<ul style="list-style-type: none">・それぞれが調べたカテゴリーごとの情報を、3、4年生各学年に分かれ「日本の海と人とのかかわり地図」を完成。他者の考えを共有し、自分の設定テーマ、海と人との関わりから発展させたテーマに深める。・グループ(協働)から自分(個)のインタビュー課題テーマを設定し、5W1Hに整理する。
4	コミュニケーション・ツールとしての表現(ダイナミック琉球) I	<ul style="list-style-type: none">・沖縄体験学習において沖縄の人々との関係を構築するためのきっかけの一つとして、パフォーマンス(を物語った歌とパフォーマンスを中心とし

		<p>た「ダイナミック琉球」)の練習。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との関係性、異学年での取り組みからの創造を学び考える。
5	コミュニケーション・ツールとしての表現(ダイナミック琉球) II	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の練習からパートごとのパフォーマンス(身体表現)練習。
6	コミュニケーション・ツールとしての表現(ダイナミック琉球) III	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ(協働学習)から全体練習へと展開させたパフォーマンス(身体表現)の練習。
7	インタビュー対話 WS①	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー撮影の体験を通して、インタビューとは何かを考える。 ・はじめにカメラなしで「趣味について」のインタビューを行う。二回目にカメラを入れ、相手に聞きたいことをインタビューする。 ・単におしゃべりのように話を聞くのではなく、答えを引き出そうとして聞くのではなく、正面を向き合って話を聞く、すなわち<対話>することを目指す。
8	インタビュー対話 WS②:「<聞く>ということ」	<ul style="list-style-type: none"> ・<聞く>ということをテーマに、前時に撮影したインタビュー映像を見返す。 ・教材に東北伝承民話の語り手と聞き手を撮影したドキュメンタリー映画を取り上げ、鑑賞した後で、グループごとに映画の感想をインタビュー撮影する。 ・自分が聞いた相手の感想をワークシートにまとめる。 ・人の話を聞くことの難しさ、大切さについて考える。
9	<p>インタビュー対話 WS③:「<撮る/撮られる>ということ」</p> <p>沖縄体験学習の事前学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<撮る/撮られる>ことをテーマに、前時に撮影した映像を見返す。 ・被写体の立場から書かれた資料や映像を通して、カメラの「暴力」と、そうであるからこそ有する可能性について考える。 ・沖縄体験学習の準備。

		各活動リーダー、挨拶担当者、民泊部屋割り、などを決める。
10	沖縄体験学習の準備	(4年生のみの活動) <ul style="list-style-type: none"> ・ダイナミック琉球の練習 ・沖縄についての知識を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ①沖縄のビデオを見る。 ②沖縄と海との関わりを考える。
11	夏休みの課題説明・沖縄体験学習準備	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄体験学習の準備。 ・夏休みの課題の説明 <ul style="list-style-type: none"> ①各自が設定した「海と人とのかかわり」を探るテーマについて、保護者にインタビュー撮影をしてもらう。 ②沖縄でインタビューするテーマについて問いを深める。
12	沖縄体験学習準備/インタビュー対話撮影の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト撮影の練習。 ・パフォーマンス(身体表現)の練習。 ・映画「ひめゆりの塔」の鑑賞。 ・時空間を越えた中で、現在の自身について考える。
13	沖縄体験学習準備/インタビュー対話撮影の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題の上映と振り返り。
	沖縄体験学習(3泊4日)	※上記、沖縄体験学習内容を参照
14	沖縄体験学習のまとめ 振り返りとしての「心の表出」	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習のまとめとして、関係者へのお礼の手紙、撮影映像の鑑賞。 ・沖縄での体験を振り返り、心の中の整理と自己を表現するために、色や形の意味を考えて描写し、「心の表出」を行う。
15	心の表出、発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄で感じ考えたことを絵として表出し、一人一人が描いた絵の意味や、使った色の意味を発表する。
16	銀杏祭準備(開会式、展示物作成)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式でこれまで行ってきた授業について発表するための準備。 <ul style="list-style-type: none"> ①パワーポイントの作成 ②表現「ダイナミック琉球」の練習。 ③授業内容のポスターの作成

	銀杏祭(開会式)	
17	インタビュー映像作品「第一の対話・沖縄」の制作①	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄で撮影したインタビュー映像(素材)を見直し、対話した相手から「何を受けとったか」を考える。 ・素材の内容をカードに書き出し、「自分が受け取ったもの」を表現するための構成を、カードを選択し、並べながら考える。
18	インタビュー映像作品「第一の対話・沖縄」の制作②	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考えたのち、パソコンにて編集作業を行う。 ※全5分の映像として完成させる。
19	インタビュー映像作品「第一の対話・沖縄」の制作③	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンにて編集作業を行う。 ・インタビュー映像作品の完成。 ・完成したドキュメンタリー映像の解説を書き、鑑賞冊子を作成。
20	インタビュー映像作品「第一の対話・沖縄」の上映会	<ul style="list-style-type: none"> ・二本目に作る映像作品についての説明を行い、上映される作品の見る意図を説明。 ・完成した映像作品の上映会。 ・鑑賞した感想を発表し、お互いの考えを共有する。
21	インタビュー映像作品「第一の対話・沖縄」の上映会	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した映像作品の上映会。 ・鑑賞した感想を発表し、お互いの考えを共有する。 ・専門家(映画監督)からの講評。 ・上映作品の中から、自分自身で深めていきたい作品を選択。 ・ふたつめの作品制作3~4人からなる全7グループの決定。
22	テーマインタビューの見直し、生徒同士話し合い問いの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・協働で制作する映像作品「ふたつの対話」(全13分)についての詳細説明。 ・グループごとに選択したインタビュー映像作品を見直したのち、互いにインタビューをしあい、各々の関心を共有する。
	奥能登輪島の方々インタビューを実施するために刀裃体験研修館を訪問する。	

23	「第二の対話・奥能登輪島」のインタビュー制作	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで選択したドキュメンタリー映像を基に、一つの大きな「問い」を立てる。 ・立てた「問い」について話を深め奥能登輪島の方々にインタビューを実施。 ※インタビューを行う内容(問い)に専門知識をできるだけ持たない人を探すようにし、その人から正解を聞くのではなく、その人自身の考えを聞けるようにした。
24	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作①	<ul style="list-style-type: none"> ・ふたつめのインタビュー映像撮影について感想の共有。 ・撮影した映像を見直し、素材の内容をカードに書き出す。
25	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを確認しながら、グループ内で「(問いの)前提」、「(ふたつめの)問い」を共有。 ・「自分たちが受け取ったもの」を表現するための構成を、カードを選択し、並べながらグループで考える。
	日本海洋教育サミット ポスター発表に参加	
26	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作③	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を行い以下の作業を行う。 ①パソコンでの編集作業 ②「前提」と「問い」の自分たちによるインタビュー撮影。
27	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作④	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたつめの対話」の映像を編集したのちに、グループで見直し、再編集点の検討を行う。終了後、「前提」と「問い」の編集を行う。
28	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・全素材をつないだのちに、グループで見直し、細かい点を編集し直し、映像作品を完成する。 ・完成したドキュメンタリー映像の解説を各グループで書き、鑑賞冊子を作成する。
29	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の鑑賞会授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたつの対話」3作品の上映。 ・各作品について感想を書く。

		<ul style="list-style-type: none"> ・最も印象に残った作品を一つ選び、その理由を説明。 ・それぞれの感想を発表し合い、お互いの考えを共有する。 ・専門家による講評。
30	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の鑑賞会 授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたつの対話」全4作品の上映。 ・各作品について感想を書く。 ・最も印象に残った作品を一つ選び、その理由を説明。 ・それぞれの感想を発表し合い、お互いの考えを共有する。 ・専門家による講評。
31	校内 課題別学習発表会	
3月18日 東京大学で成果報告会のシンポジウムを開催する		

② 実践の評価について

「よりよく問題を解決する資質や能力」、「学び方やものの考え方」、「主体的、創造的、協働的に取り組む態度」及び「自己の在り方、生き方」等について、授業内で行ったワークシート(ウェビングシート、問いから課題への発展シート、インタビューシート、映画制作ワークシート、他など)、心の表出作品、さまざまな体験学習のまとめの感想、身体表現「ダイナミック琉球」、ドキュメンタリー映画制作過程および完成作品、授業の振り返りから、次にあげる評価基準と照らしあわせて、その実現状況を評価した。

関心	興味・関心	・学習に対して積極的に取り組んでいる
		・自分が成長していくために必要な学習と意識がもっている
		・自分の興味や関心がもっている
意欲	実行力・積極性・創造性	・主体的に意識をもって学習を進めようと心掛けている
		・苦手(消極的)な学習にも粘り強く取り組んでいる
		・問題点を整理し、修正を加えながら取り組んでいる
		・誤りや失敗があっても根気強く取り組んでいる
関係・態度	指導力・コミュニケーション・協調性・社会性・達成感	・学習の際、他者(班内の友人等)との協力・協働ができています
		・自分の役割をしっかりと果たしている
		・相手の立場になって行動できている
		・自分の学習の支援者に感謝できている
		・学習を終えて充実感(達成感)を得られている
思考	課題設定力・企画力・課題解決力	・学習(課題)の目的を理解している
		・自分の周りや体験から学習したい課題設定ができる

判断	情報活用力・価値判断力・評価活用力・相互評価力・自己評価力	・ 収集した情報を適切に選択し、分析することができる
		・ 得られた知識・経験・技能を生かせる
		・ 生徒間の意見交換や相互評価に積極的に取り組んでいる
		・ 学習を通してさらに調べてみたい新たな課題が見つげられる
		・ 相互評価を通じて自分の学習のあり方を深く考えられる
		・ 他者評価を通じて自分の学習のあり方を深く考えられる
自己表現	整理力・発表力・討論力・独創性	・ 学習のプロセスを整理して、筋道を立ててまとめられる
		・ 必要に応じて機器等を使い、適切に発表することができる
		・ 話し合いに積極的に関わり、自分の考えを適切に述べられる
		・ 自分なりの意見や主張をまとめることができる
		・ 他者にわかりやすく伝えることができる
知識・理解	知識の獲得・理解の深化	・ 学習の目的について理解を深めることができる
		・ 必要な機器についての扱い方が適切にできる
		・ 教材の意味を理解し、創造的に知識を広げられる
生きる力	自分の生き方を考える態度	・ 学習を振り返り、自分に自信がもっている
		・ 学習を通してこれからの自分について考えられる
		・ 自己実現への努力をしようと考えられる

5 今年度の実践

① 計画からの追加・変更点は特になし、計画通りに実施した。

② 実践の成果

- ・ 海洋教育に教育学的観点から捉えた社会に生きる学習として、次期学習指導要領改訂に向けた探究的学習とディープアクティブラーニングの可能性を示唆した。
- ・ 学校教育における人間形成を担う海洋教育カリキュラムとして、東京大学福武ホールにて地域連携部門採択3校で全国の教育関係者を対象にシンポジウムを開催した。
- ・ 大学研究機関(東京大学)と学校教育との連携のあり方について、一つのモデルとして発信した。

< 今後に向けて >

- ・ 海を介した分野に対し、得た知識や情報から創造的に推論し、それを実際に確かめ深め、深い学びの場を設定することにより、新たな授業方法のカリキュラム開発が期待できる。また、公開研究会やシンポジウムでの発信から、新たな海洋教育として発展させることが可能である。
- ・ 地域、文化、多様な学校種間を越え、新たな海洋教育連携モデルとして発信することが可能である。

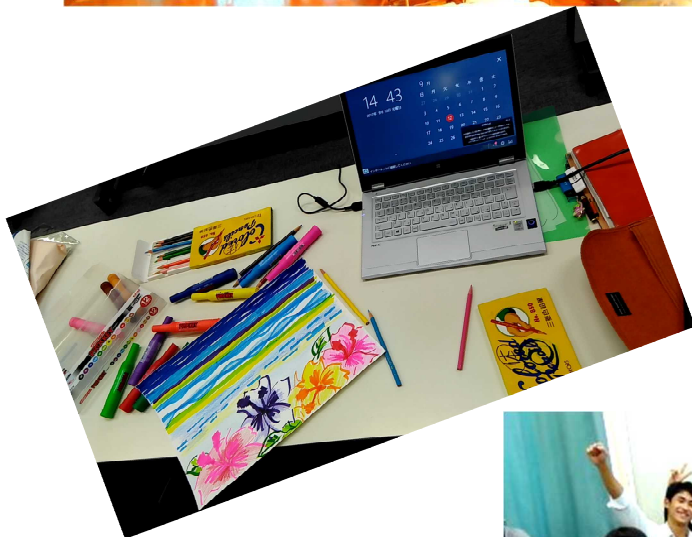
6 主な連携機関及び内容

連携実施機関：東京大学大学院教育学研究科

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター

※2018年3月18日にシンポジウムを同研究科、同海洋教育センターと共催で開催する。その際、沖縄の連携校も参加し合同の成果報告会とする。

※2016年度(4年継続)から本講座は、文科省研究開発事業の研究指定教科「探究的市民科」となっている。



「海と人とのかかわりを探る」 課題別学習「海・Sea」

境界（地域、文化、世代、学校種）を越えた
海洋教育連携カリキュラム・デザイン

- 総合的な学習の時間
- 対象学年：前期課程3年（中学3年に相当）、後期課程4年生（高校1年に相当） 18名
- 【ねらい】
- 島国である日本の海事情をさまざまな分野（自然、生活、文化など）から、知り、感じ、考え、海そのものを包括的に主体性をもって学ぶ。
- 自分の生活している環境と異なった地域社会について、対話（インタビュー撮影）を軸に、さまざまな分野（自然、生活、文化など）から思考活動や身体表現を探究的に学び、新たな価値を育む。
- 【地域展開部門のねらい】
- 東京と沖縄の小・中・高校生が連携して、海を介して人を知り、人を学び、自分たちの日常生活にない連携校の「学び」を共有する。



どのように学んだか

- 「海と人とのかかわり」について、
- ・資料、書物の読解（知識や理解の深化）
 - ・フィールドワーク（沖縄と奥能登の体験・交流）
 - ・対話（インタビューの実施、新たな価値の発見）
 - ・ドキュメンタリー映画の制作（創出と協働の学び）
- 海と人とのつながりの深さと豊かさを受け取った。

そして、つなげる

- ①聞くことを中心にコミュニケーションの力を培う。
- ②新たな価値を育む。
- ③自他ともに互いの価値が異なることを共有し大切にする。
- ④他者を意識し、自分の言動に自覚的になる。
- ⑤自己の表現、探求からメッセージを発信する。

地域展開部門

宮古（池間）
沖縄（那覇）
東京

